



# 仕事紹介

あいなん仕事紹介 その⑱

【町内で生き生きと仕事をしている方を紹介します】

## あいなんバス運転手 平野 厚也さん

### 心からの笑顔を糧に

町内で8路線を運行するあいなんバスの運転手、平野厚也さん。平成31年4月から内海地域を除く7路線を9人の運転手と共に運行しています。

長年クレーン車のオペレーターとして大型の重機を運転してきた平野さん。お客さんに乗せて走行することや定時通りにバス停に着くというプレッシャーに不安を感じていました。そんな中、平野さんにとって初めてのお客



さんが『ほんとに100円でいいの。今までより安く乗れるけん、おかげが余分に買えて助かる』と述べた感謝の言葉と笑顔は、今でもはつきり記憶に焼き付き、仕事を続ける上での活力にもつながっています。

### 初心を忘れず、過信せず

運転手の仕事は朝早く、運行前に始業前点検を行うほか、ハンドルやブレーキに異常がないかなど運転中にしか気付けないようなポイントをチェックして1便目の出発地点に向かいます。運行が終わるごとに乗降者数を日報に書き込み、休憩時はバス内の掃除や洗車を行うなど、お客さんが気持ちよく利用できるよう努めています。

安全運転を心掛ける上で必要なのは、「自動車教習所で学んだ基礎中の基礎を忘れないこと」と話す平野さん。交通量の多い大きな道はもちろん、信号機のない見通しの悪い脇道から合流する際は安全を確認し、常に周囲に気を配ることで危険を回避しています。

「あいなんバスは一部の区間を除いてフリー乗降が可能です。お客さんが安全な場所でも降り降りできるよう、停車位置は入念に確認します」と話すように利用者の安全を第一に考えた運行を行っています。

### 元気な笑顔をいつもの所へ

あいなんバスの利用者は全路線で毎月5000人ほど。そのうちの大半が高齢者です。バス利用時の安全を守ることはもちろん、それ以外の場所でも事故に巻き込まれたり、事件につながることはないよう小さな変化にも気を配ります。

平野さんを含め他の運転手も常連のお客さんの顔や乗降場所をほぼ把握しており、気になることは運転手同士で必ず情報交換しています。過疎地域の交通を支えるコミュニティバスは地域の高齢者の移動手段を充実させるだけでなく、ひとり暮らし世代の方の様子を地域の人たちと共有する大きな役割を担っています。

### 穏やかな水の流れの ような運転を

「あと何年かしたら今度は自分がお客さんとしてバスを利用しているかも」と笑いながら話す平野さん。

自分がさらに歳を重ね、利用者としてバスに乗るのならやさしい運転をしてくれる運転手さんの車に乗りたい。その思いを胸に、今後も利用者の安全と笑顔に乗せ、あいなんバスを運行していきます。

